

サッカー次世代育成 続々

本田提案スクール*「翼」作者後援チーム

サッカーの欧州リーグで活躍する日本代表選手や名門クラブの指導者らが関係する新たなスクールやチームが、北部九州に続々と進出している。Jリーグ1部(J1)のサガン鳥栖やJ2アビスパ福岡、ギラヴァンツ北九州の3クラブが集まる地域で、関係者からは「底辺が広がることで、サッカー熱が高まり、レベルアップにもつながる」と、期待の声が上がっている。

(崎田良介)

福岡・佐賀



A Cミラン(イタリア)所属の本田圭佑選手(28)がプロデュースする「ソルテイローファミリアサッカースクール」は、これまでの関東、関西での展開から、本田選手の「2018年ワールドカップロシア大会までに全国に300校」という希望を受け、4月上旬に福岡市と福岡県筑紫野市、佐賀県鳥栖市に計6校が九州に初進出。約1300人が通っている。

事務局がある大阪府で研修を積んだコーチが、それぞれの会場で週1、2回の練習を担当。幼児から小学生までを学年別にグループに分け、本田選手が自身の

福岡市内のスクールで子どもたちを指導するソルテイローの山田コーイチ(中央)

サッカースクール、チームが北部九州で拡大している



飯塚市 元バルセロナ監督が講師のアカデミー
福岡市・筑紫野市・鳥栖市 本田圭佑選手プロデュースのスクール(計6校)
大川市 「キャプテン翼」作者後援のチーム

の作者である高橋陽一氏(54)が後援会長を務める東京都3部リーグ・南葛SCの中学生年代チームも設立され、21人が所属する。共通するのは人材育成や地域活性化への強い思いだ。ソルテイローで九州地区のコーチを務める山田敏貴さん(23)は佐賀県唐津市出身で、「いつか地元で指導したかった。子どもに夢を持たせることがソルテイローの理念。サッカー以外の道に進んだとしても、自己主張ができて先頭に立って引張っていきける人材を育てたい」と語る。

同アカデミーの運営会社ゲーティアンシップの北博典社長(51)は「海外へのサッカー留学は時間も費用もかかる割に、まともな練習ができない。国内で海外留学のような環境を作りたかった」と意義を話す。「南葛SC FUKUOKA」の江頭新太郎代表(38)は「地方と東京で文化交流したい。一つのモデルケースになればと期待を込める。Jクラブでは、将来的にトップチームで活躍する選手の育成を大きな目標として、スクールや18歳以下のチームなどを運営。ビジネスの面で見ればライバルもいえるが、鳥栖の竹原社長(54)は「自分たちで企画やろうというのはおこがましい。地域が活性化できればいい」と話し、福岡の藤崎義孝アカデミーダイレクト(39)も「一人でも多くサッカーが好きな人が増えれば、全体のレベルが上がる」と歓迎する。

経験をもとに必要性を感じた、俊敏性やコミュニケーション能力を高める練習などに取り組む。福岡東校の場合、月会費は4000、7000円となっている。福岡県飯塚市には、スペインのFCバルセロナで監督を務めたカルロス・レシヤック氏(68)とアントニオ・デラクルス氏(68)が講師のサッカー学校「レシヤック&アントニオフットボールアカデミー」が開校し、15歳以上の約30人が技術を磨いている。福岡県大川市では、漫画「キャプテン翼」

同アカデミーの運営会社ゲーティアンシップの北博典社長(51)は「海外へのサッカー留学は時間も費用もかかる割に、まともな練習ができない。国内で海外留学のような環境を作りたかった」と意義を話す。「南葛SC FUKUOKA」の江頭新太郎代表(38)は「地方と東京で文化交流したい。一つのモデルケースになればと期待を込める。Jクラブでは、将来的にトップチームで活躍する選手の育成を大きな目標として、スクールや18歳以下のチームなどを運営。ビジネス